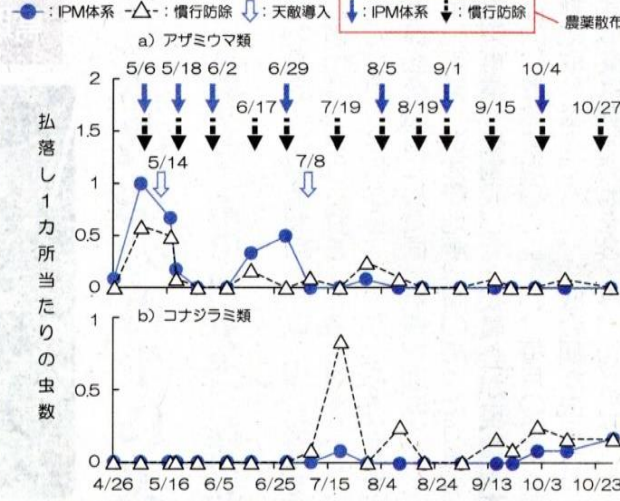


図 アスパラガス擬葉上のアザミウマ類成幼虫、コナジラミ類成虫の発生推移



天敵のダニで防除 殺虫剤半減で効果



アスパラガス

西日本を中心として行われているアスパラガス半促成長期どり栽培は、長期栽培のため殺虫剤を散布する機会が多く、薬剤抵抗性害虫発生の懸念から化学農薬のみに頼ら

現場で使える！研究成果

スワルスキーカブリダニによるアザミウマ類の捕食

ない防除技術の開発が求められている。主要害虫としてアザミウマ類とコナジラミ類があるが、特にアザミウマ類は、若茎を加害し品質低下を引き起こすため、深刻な問題となっている。

そこで、天敵保護資材（バンカーシート®）を用いた天敵スワルスキーカブリダニ100パック/10畝の2回処理と、天敵を保護し増殖させる植物（天敵温存植物）のスカエボラ十殺虫剤の半減（慣行比）を組み合わせた防除体系（以下、IP

M体系）を検討した。その結果、IPM体系はアスパラガス親株上のアザミウマ類とコナジラミ類の密度および夏芽のアザミウマ類の被害が慣行防除と同等になり、IPM体系は殺虫剤を半減しても慣行防除と同等の防除効果を示すことが明らかとなった。また、栽培期間中を通じてスワルスキーカブリダニが確認され、アスパラガス上での定着も認められた。

今後は現場への普及をめざすとともに、スワルスキーカブリダニの処理量を減らしコスト削減を図った防除体系の実用性についても検討していく予定だ。

（農林技術開発センター 環境研究部門 吉村友加里）